



発行所 東京片貝会 東京都江東区高橋5-1-313 電話 (3632) 0156

春は新緑とともに

和やかに語らいきましょう

平成4年6月28日(日)午後一時開会 会場・東京新潟県人会館

緑風薫る好季節を迎えました。

会員の皆様、健やかにお過ごしでしょうか。おかげ様で、片貝会も創設以来三十三年を迎えました。郷里のお客様をお招きしております。どうぞ、ご出席下さい。心からお待ちしています。

記

一、日時 平成4年6月28日(日) 午後一時(正午より受付) 一、会場 東京新潟県人会館(台東区上野1丁目13-6)

営団地下鉄「湯島」二分(千代田線)、「上野広小路」六分

(銀座線)、JR「御徒町」七分

一、会費 五〇〇〇円(料理・飲み物・果物など)

お願い 返信は6月20日までに届くようお願い申し上げます。

会費のこと

年千円。昭和60年より変更してありません。ご案内に振替用紙が同封してあるのは、

本年度の会費をお願いしたい方です。既納の方には入れてありませんので、ご放棄下さい

経費は年二回発行の会報と郵便料が、主要なものです。会報は皆様と会を結びつける大切な役を持つものと考えています。どうぞ、よろしく。

会の動き

新年会 1月12日

新潟県人会館で、二面参照

青樹荘花見の旅 4月11日

12日 三面参照(第13回)

念のために一母校を励ます会 この会計は、片貝会とは全く別にしてあり、会の目的以外に支出しておりません。

人の動き

神林徳次氏逝去 1月3日

一昨年の暮に交通事故で奇禍にあった神林さんは、療養専一に努めていたが、81歳で他界された。これまで会のために、陰になり日向になって協力いただいたが、惜し

賽の神

県下随一を誇る

雪がなくて、例年のような飾りつけができなかったが、参道の両側に百八本のローンクに火が点された。

成人を迎えた鳳凰会と、四十二歳の十九伸会の人達が、木遣りを奉納したあと、福餅がくばられた。

やがて、仕掛花火や花火が間断なく打ち揚げられ、気分

まれてならない。相崎勇次氏夫人逝去 副会長相崎さんの奥様が病

氣に勝てずなくなられた。二月八日。死んでしまえば、なにもかもおしまいです、と述懐されていた。ご冥福を。大矢幸治氏病む 会計監査の大矢さんは、町

会の役員もしておられたが、いろいろの苦勞があつて、胃や肺の不調を来して病臥中。最近漸く回復に向かわれつつある。

お願い 会報発行のために、編集を手伝って下さる方を待望しています。お申し出下さい。切に!



も高まってきたところで、高さ15米の賽の神に点火された。境内いっぱい集った二千



人の町民は、すばらしい火柱に酔うばかり。するめや餅を焼いて、本年の無病息災を祈願した。

Table with 3 columns: 動 (平成4年1月以降), 異, 去. Lists names and addresses of members and their movements.

晴ればれと新年に集う

平成四年一月十二日
東京新潟県人会館

今年の新年会は、例年になく早い日取りとなった。いつもよりも寒さは厳しくないとはいえないものの、寒中であれば、やはり冷え込みは続いていた。でも、今日は曇っているが、おだやかな一日だった。

年頭のあいさつ

定刻一時に、松下利夫さんの司会で開催された。

勝又会長から年頭の決意があり、新年早々に急逝した神林徳次さんのために、弔意が述べられた。



恒例の青薔薇への花見の旅を四月に実施したい旨を告げて懇親会になった。

懇親会

大矢福次さんの乾杯音頭で和気あいあいの裡に、宴となる。

新年の福引は長い歴史があるが、いつも皆さんの楽しみとなっている。

例年大矢幸治さんが一手に世話をしていた

母校を励ます会の代表佐藤祐一さんからあいさつ。会が本年度で十年を迎えることになった。ここで会のあり方を再検討してもよい時期である。が、私個人としては、現在の方針を継続していつてよいように思う。皆さんの考えをお聞きしたい、との提言があった。

佐藤前会長から、励ます会の会計報告に、一部誤植があったことを、お詫びもうしあげる

続いて小野塚茂さんから、恒例の青薔薇への花見の旅を四月に実施したい旨を告げて懇親会になった。

だいたいの、今回は病欠欠席のため、その準備は大変だったようだ。改めて、大矢さんの苦勞のほどが身にしみた。けれども、皆さんの協力でお祝いした。今年も、皆さんの協力でお祝いした。今年も、皆さんの協力でお祝いした。

賑やかな裡に進行していった。浄照寺が毎年寄贈して下さる手拭は、横綱吉葉山の手形を染めたもので、当時のことを思い出した人もあったようだ。いつもに劣らぬ内容豊富な福引だった。

会も次第にクライマックスとなり、しやぎりの演奏が開始された。いつも笛を吹いてくれる諸我さんが欠席で、やや氣勢が乏しかったのが惜しまれた。

それでも、最終の木遣り唄は、全員で大いに意気があがって、盛會裡に閉幕となった。

御芳志感謝、福引の品を御寄贈いただいた方

- 佐藤量八 大矢福次 安達宗吾
- 小川茂雄 相崎勇次 日下部政子
- 山口ヨシ 芝 五郎 芋川とし
- 勝又 功 黒崎孝造 佐藤彦一
- 芝三四司 黒崎音吉 丹治きみ
- 松下利夫 山口光雄 小野塚茂



山岸慶昭 佐藤祐一 以上20名

お祝をいただいた方

安達宗吾 黒崎孝造 五十嵐貞雄 松井エツ

当日の出席者 四七名

○大正

佐藤量八 大矢福次 安達宗吾 神林マス 山口富次 石黒ミス 安達徳太郎

○昭和21

本田政秀 小川茂雄 早川松太郎 相崎勇次 丸山広弥 日下部政子 山口ヨシ 芝 五郎 吉井武二 芋川とし 勝又 功 本田松次

黒崎孝造 吉原彦作 黒崎敬五郎 佐藤彦一 芝三四司 小宮良夫 小宮竹次

○昭和11

黒崎音吉 小宮秀夫 山口吉五郎 山田チエ 岡 牙子 山田松次郎 大矢常吉 丹治きみ 小宮八重

青木富代 松下利夫 佐藤敏雄 佐藤道雄 山口光雄 小宮幸雄 山田利雄 五十嵐貞雄

○昭和21

山岸慶昭 小野塚茂 石川はる 佐藤祐一

母校この頃

◇小学校

バスケットで優勝 11月24日

長岡地区の大会が北部体育館で開催された。男子部の参加は八チームで、小出や長岡を次つぎに破り決勝戦では29対25の接戦で、逆転優勝した。

中越地区の代表として、新潟市で開かれた12月7・8日の県大会に出場した。が、惜しくも上位入賞を逃した。

大回車で一位 2月13日

2月13日白山運動公園で行なわれたスキー大会で、吉原優人君が優勝した。

当日は中学校が主体のスキー大会だったが、母校の選手はまずまずの成績だった。

バレー大会で三位 2月23日

長岡地区の大会は工業高校体育館に、14チームが参加した。母校チームは初出場ながら、準決勝まで進んだが、大島チームに2対1で惜敗した。

昨年八月に、チームができたばかり。週二回練習しているが、現在、チームは31名。

今後の充実が期待される。

教頭先生の栄転 4月1日

民族学者としても活動されている長谷川一夫先生が、三条市の指導主事になられ、後

任として与板小から高橋幸雄先生が昇任して赴任された。

また、長谷川先生が主になって編集された「片貝の歴史」が、この春の卒業生一同に、記念として贈られた。

◇中学校

改築に伴って問題おこる

学校の改築は、平成4・5年度に六億七千万円かけて完成することになっている。

ところが二月になって、予定地(現グラウンド)の西側にアスファルト工場が進出する計画が浮上してきた。

工場ができれば、大気汚染、水質汚染、悪臭などのおそれがあるため、町内に大きな反響を呼んだ。

早速反対の署名運動がなされて、三六四七名も集った。

地元への説明会もあったが三月の半ばになって、工場側が白紙撤回を申し入れたため、円満に解決した。

なお市議会では、予定地は花火工場にも近いから、いっ

その他の地に変更してはどうかという意見もあったという。

作文で教育長賞

市では毎年、明るい家庭を主題した作文を募集している

三年生の品田瑞宏君が、入賞した。(昨年度) 家族との対話の大切さに、

花を愛でて、箱根へ

青巒荘花の旅(第13回) 平成4・4・11〜12

時おり日も射して、まずうららかな日和となった。五時までに、三々五々青巒荘に集合する。何よりもまず温泉につかる。大風呂でくつろぐ人、岩風呂で、滝の音をききながら、のんびりするものもよい。身も心もさわやかに、なって懇親会となる。



飲むほどに、語りあうほどに、興が湧き、楽しいいっぱいである。マイクの順が廻ってくるのが、もどかしいほど次つぎと歌声がひびく。日頃の憂さも、どこかへ消しとんでしまった。翌朝はゆっくりして、花見台へ足を伸ばす。昨日にまさ

気づかされてゆく、心の成長ぶりが感動的に書かれている。

春の好天に恵まれた。咲き競う花の下で飲むうま酒が、のどにしみ通る。

たまたま隣り合わせの花見客と、親しく交流できるのも花の恵みである。正午過ぎまで楽しんで、後髪をひかれる思いで下山した。例年より少ない参加だったが、内容の濃い、楽しい旅でした。

参加者 12名
佐藤正雄、芝五郎、黒崎孝造、太刀川善蔵、勝又功、相崎達一、大塚順一、黒崎正、黒崎勝、阿部修次、安達和、三、小野塚茂、



親鸞上人像建つ

浄照寺境内に、建てられた当日の写真を紹介します。像



満十年を迎えて

総括と感謝と

この運動を始めて、今春で十年となった。

ご寄贈と利息を合わせて、三百万円の収入となった。

基金をいただいた総数は、三百三十五名(延八三二名)である。(五月末現在) この中十六名が他界された。

よくもここまで続けることができたのは、会員の皆様のご支援によるものであり、感謝のほかはございません。

最初の記念講演を、聞いてくださった生徒諸君は、すでに二十五歳に達しておられる筈である。

私達のささやかな願いが、

は、親鸞が布教のために、行脚している姿である。

安達宗吾氏が寄贈、前号を参照下さい。

母校へ贈り物

黒崎敬五郎氏は、9回目の母校を励ます会の講演の際に左の書を中学校に贈られた。不羈(ふき)とは、束縛されず自由であること。黒崎さんの信念の一端でもあろう。



母校を励ます会

母校の皆さんの励みに、いささかでもなるならば、この上ない喜びです。

基金をいただいた方 20名

平成4年1月〜5月まで
○昭和2〜10
丸山広弥 勝又 功

○昭和11〜20
内海光子 安達敏一 城所テル 丹治きみ 松下利夫 山口時男

小宮二郎 小宮きよ
○昭和21〜30
新野次朗 安達吉秋 岸田とし子 新沢須美 佐藤祐一 横尾ミチエ

丸山良司 黒崎紀雄
○昭和31〜39
軍司雅子 天野八重子

会員短信

和田力子氏(大12) 1月25日

ご主人は築地魚市場の理事として活躍。三代が世帯を持って発展していることを感謝し披露を。東京プリンスで

星野三作氏(大15) パーキンソン病に悩んでいます。手足が不自由の身となりました。

黒崎 勇氏(昭8) 昨年は出席させていただきました。ありがとうございます。再々のお手数に感謝。

堀井豊作氏(昭9) 昨年末、12月30日に心臓手術をして退院してきました。目下、身体自愛中です。

山口武一郎氏(昭9) 足腰が弱くなり、遠出は控えるようにしています。早く会にも出席できますよう、心がけています。

気田登美氏(昭19) 役員の皆様のご苦労にはいつも感謝しています。今後とも一層の発展を祈るや切。

清水松次氏(昭17) 清水ミイ氏(昭20) 会報をいつも楽しく読ませていただいています。そして役員の皆様のご苦労に感謝しています。

新野次朗氏(昭21) 昨秋体調をくずして、まだ完全に回復していません。(右は一月の便り)

佐藤孝二氏(昭22) 会報で会の様子や片貝の近況が手にとるように知ることができ、喜んでいきます。

遠くになって、参加も思うにまかせません。(在・仙台市) 吉原栄一氏(昭22) 故郷を後にして、42年経ちました。会報で、片貝の町が発展している様子を知り、喜んでいきます。

母校を励ます会・会計報告
会報44号以後の収支(平成3・11・30〜4・5・31)
収 入 ¥50,242 支 出 ¥20
基金(20名) 53,000 会報編集用紙 20
利息 17,242

お詫び(前号収入額の200,470円は197,470円の誤植につき訂正)

全通算会計(昭和58・5・1〜平成4・5・31)	
収 入	¥3,001,867
支 出	¥2,167,118
基金(延832名)	2,779,200
寄贈図書(9回)	2,000,000
利息	222,667
寄贈演会(10回)	100,000
印刷・郵券等	67,118
現 在 高	¥834,749

ふるさと・は・今

3年12月から
4年5月まで

市の財政状況

12月8日
県下二十市ある中で、小千谷市の借金である公債の比率は16・6%で、ワーストワンという。除々に好転しているとのことであるが、ぜひ善処を望みたいところ。
ユニホック全国大会で善戦

12月8日
代々木の青少年総合センターで。74チームが出場した。
しかも片貝チームは一番遠くからの参加だった。市内で優勝したので、体育課から推薦されて出場した。

スウェーデンチームとは3対0、板橋チームに1対0で惜敗したので、予選通過はできなかったものの、善戦して選手一同は満足顔だった。
この競技は、最近はやりだしたもので、徐々に盛んになりつつあるという。

東京片貝会・会計報告

(自平成3・4・1 至平成4・3・31)

収入総額	¥ 1,446,259	支出総額	¥ 1,446,259
前年度繰越金	483,259	総会費	349,485
年会費	358,000	会館払	302,855
総会会費(57名)	285,000	来賓みやげ	21,630
新年会会費(47名)	235,000	お車代	20,000
祝儀寄付	83,000	お手伝手当	5,000
雑収入	2,000	新年会費	301,297
別途積立	400,000	会館払	266,297
		福引雑費	35,000
		印刷費	28,000
		会議費	35,000
		通信費	130,540
		会報費(43号・44号)	168,887
		交際費(旅費)	10,000
		慶弔費	20,000
		事務費	2,000
		新規積立	100,000
		振替手数料	13,380
		次年度繰越	287,670

上記の通り報告致します

平成4・3・31

会計部長 黒崎 孝造

上記は適正且つ正確であることを認めます

会計監査 小川 茂雄

大矢 幸治

高橋 四郎

ほのぼのの広場も活躍

賽の神に合わせ、高さ一米の金銀の折鶴を作って展示した。はじめ雪像を企画していたが、雪がないために鉄を溶接して作った。
まゆだまと甘酒を用意して賽の神から帰ってくる人達に振舞った。五百人分のまゆ玉と八百人分の甘酒は、あっというまになくなってしまった。

ことしの雪

賽の神にはなかった雪も、一月末7cm積った。昨年は一〇三mもあったのに。
ゲートボール大会 2月5日
片貝農協が主催して、本年度七回目。12チーム百名が参加して、湯之谷村にある室内競技場で、熱戦がくり広げられた。

その結果、高梨チームが優勝した。五之町のチームは、初出場ながら敢闘賞を勝ち取り、意気あがった。
越後製菓の火事 2月6日
池津にある越後製菓の工場から出火した。朝の七時半のこと、一時間余で漸く鎮火した。

平成元年にも出火したことがあった。何れもせんべいを揚げる場所からであった。が今度の工場には、防火設備が完備していたので、四階だけ

で助かった。損害は数千万円に及ぶとのことである。

雪原まつり 3月14・15日
小栗田原をメイン会場として行なわれる予定だったが、雪が少なくても使用不能となり白山公園に会場が変更となった。

祭の主役である熱気球は全国から27機が参加して、西中学の雪原から飛び立った。14日の7時すぎから一斉にフライトした。市街の上空を飛び、気球は、大変の人気だった。

二の町の小野塚彦一さんは、銀行を退職の後、母親と奥様供養のために、全国大会に参加した。北は北海道から、南の沖縄まで、公式大会に七回全部参加された。

新潟県では最初の受賞であった。トロフィーを受けた小野塚さんは、市の図書館に大活字本28冊を寄贈した。



ごぜ唄を鑑賞 2月20日
農協の親睦団体カトレアの会が主催。日本では唯一の伝承者竹下さんを迎えて、農協ホールに二百五十名が耳を傾けた。

片貝まつりのスタンプ

片貝支所にお祭りのスタンプが置かれている。以前祭の宣伝に、はがきが売り出された時のもので、図柄は佐藤完二郎氏(三の町)による。大変人気を呼んでいる。

空手指導にカナダへ

浄照寺副住職の小林光紀氏は4月末から5月3日まで、カナダで空手の指導をされた。これで三回目という。三百名以上も集まって受講した。

山野草の会

5月10日
ふるさと会館で。会は四年前に結成されたが、今回初めての展示会を開いた。珍しさもあって、たくさんの方の入場者が賑わった。

あとがき

限られた紙面に、故郷のこと、会の様子を、要点を抜かさずにまとめるのに苦心しました。45号をお届けします。

年に二回の集まりです。時の流れとともに、人の動きにもいろいろ変動があって、深い感慨をおぼえます。お出かけ下さい。そして語りましょう。